

鬼からのメッセージ

●鬼の歴史から学ぶこと

- ・見えるものがすべてではない
- ・「あたりまえ」「正しい」は変わる
- ・社会は多様な人々・文化で構成されている
- ・情報・リスク・ストレスとのつきあい方
- ・「白か黒」「ゼロか百」ではない生活視点

情報や SNS とのつきあい方

- ・混同や対立せず、冷静に問題を整理しよう
- ・感情ではなく、科学的・客観的に見よう
- ・うのみにせず、事実かどうか確認しよう
- ・拡散する前にひと呼吸（→差別に加担しない）
- ・「わからない」「不安」とつきあう
→理解できなくても尊重できる

決めつけ・排除の前に



●鬼からのメッセージ

鬼＝相手の言い分も聞こう！
(まずは対話を)

噂に惑わされないで！
自分で考え判断しよう

決めつけないで！
別の視点で考えてみよう

わからなくていい、
でも排除しないで！

他者や「ちがい」に敬意を

多様性を尊重しよう！
対等な姿勢でね



どんな社会をめざす？



「あたりまえ」「ふつう」
はみんなちがう

誰かが生きづらい
「あたりまえ」「ふつう」
「しくみ」を変えよう

多様性を尊重するということは、感情や理解に関係なく、自分とはちがっていても、「その人が大切にしている価値観や文化を尊重する（ただし差別する自由はない）」「人には敬意を持って接する」ということではないでしょうか。「マジョリティ／マイノリティ」の境界や「らしさ」「ふつう」「あたりまえ」の基準は、時代や地域、文化や集団によって異なります。「異なること＝ちがい」が、「攻撃しても良い」対象、侮辱や否定の材料となってしまう背景には、偏見や社会の構造的な問題があると思います。

どのような経験をするか、どのように情報を得て活用できるかということは、その人の意識や価値観、人生観、人との関係の作り方（姿勢）に、大きく影響することでしょう。特に子どもたちには、多様な存在や「ちがい」を肯定的に知る、異なる意見を聞く、視点を変えて考えてみるという経験・試行錯誤を、たくさんしてほしいと思います。経験は、その後の気づきや学びの土台となることでしょう。

「鬼」をきっかけとして、人権や差別とは何か、多様性を尊重すること、人権を尊重することについて、考えてみる、誰かと話してみる、何か行動してみるものの、ささやかでもきっかけとなれば幸いです。



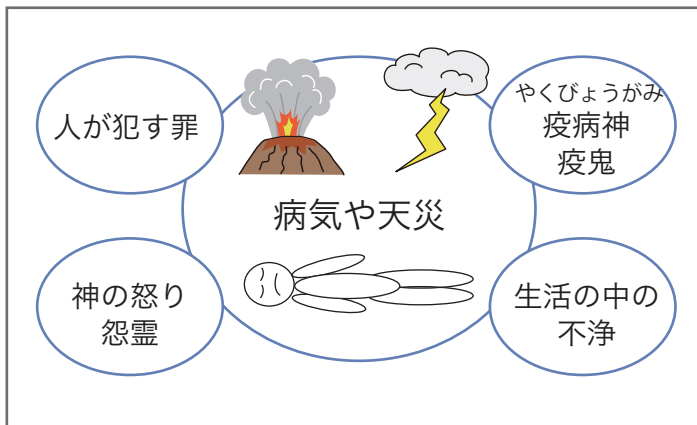
鬼と考える「多様性」と「人権」

～歴史や社会を、鬼の視点で見てもいい～



鬼って何だろう？

①節分と追儼（ついな）～見えないものへの恐れ～



追儼（公事十二ヶ月絵巻）



冷泉為恭 画, 写・国立国会図書館デジタルコレクション

大晦日夜の宮中行事、平安時代には恒例に。陰陽師の祭文、方相氏と童子（振子）が「見えない鬼」を追い、官人が桃弓葦矢と桃杖で払うという儀式。

方相氏（ほうそうし）の特徴＝異形（いぎょう）

「周礼」「令集解」には

- ・熊皮を被り
- ・黒衣に朱の裳
- ・黄金4つ目

・矛（ほこ）と盾（たて）
※鬼を追う側→平安後期には追われる鬼役に



節分の豆まきや厄払い

●臥雲日件録（1477）

明日立春。故及昏景、家毎室散熬豆。因唱鬼外福内四字。
（豆をまいて、鬼は外、福は内と唱える）

●塵塚談（江戸時代）

厄はらいといふ非人、節分の夜は御厄はらいが厄払いましょと叫び、武家町家を歩行く



高階隆兼〔原画〕他『春日権現験記繪』巻5,〔写〕,天明4[1784] 国立国会図書館デジタルコレクション ※原画は鎌倉時代

屋根の上に 赤鬼

病気の原因の可視化

「為朝の武威痘鬼神を退くの図」

ためとものぶいとうきじんをしりぞく

疫病を制するという伝説の源為朝が、痘鬼神（天然痘を擬神化した悪神）を退治する場面。

芳年『新形三十六怪撰』 松木平吉, 明治35. 国立国会図書館デジタルコレクション



昔の人は、病気や災厄の原因のひとつを、目に見えない鬼（疫神・疫病神・疫鬼）だと考えたようです。医療や科学が発達した現代人でも感染症の対策に苦労しているのですから、当時の人々の不安や恐怖はどれほどだったのでしょうか。その後、「見えない病気の原因」が、鬼や人（神）の姿で描かれるようになります。

可視化の過程で、鬼のイメージが作られてきたのでしょう。見えないものをわかりやすく可視化して退治することは、レッテル貼り、偏見の強化につながる可能性があります。安心して終わり、ではなく、「なぜそうするのか／しないのか」、探求する機会になればと思います。また、パターン化して繰り返されることで忘れられてきた物事の本質や背景、役割を担ってきたはずの人々にも、思いを馳せる姿勢を大切にしたいものです。

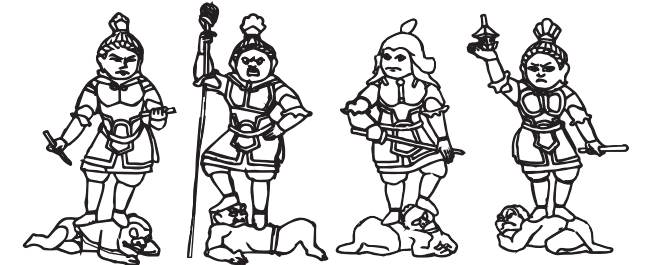
③宗教と鬼～鬼が果たしてきた役割～

仏教の世界の鬼

- ・荒ぶる神＝鬼神
- ・改心して仏教に皈依→護法神（ごほうしん）
- ・調伏される対象
- ・地獄思想
- ・煩惱＝鬼

- ・閻魔大王
- ・夜叉（やしゃ）
- ・羅刹（らせつ）
- ・阿修羅（あしゅら）
- ・鬼子母神（きしもじん）
- ・邪鬼（じゃき）

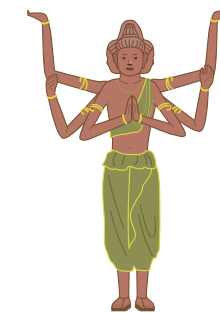
四天王に踏まれる姿の邪鬼（じゃき）



疫鬼群「融通念仏縁起（写）」



国立国会図書館デジタルコレクション



すみおに 隅鬼：岩船寺（京都府木津川市）

いろんな姿の 鬼がいるね



地獄の鬼「融通念仏縁起（写）」



国立国会図書館デジタルコレクション



仏教の世界には、悪鬼や鬼神から転じて、仏教の守護神（護法神）となった存在があります。地獄絵や邪鬼のようにこらしめる／こらしめられる姿で登場する鬼、仏様の力を表現する場面に登場する鬼たちは、宗教的な教えをわかりやすく示すという役割をしているのでしょうか。鬼のイメージがつけられてきた過程に大きく影響したと思われます（隅鬼のように「支える鬼」もいますよ、お寺に行ったら探してみてくださいね）。

古い時代の絵巻物で表現されている鬼たちの姿は、多様な姿をしています。「人ではない」存在をどう表現しているか、鬼が一方向的に排除される対象ではないことも注目です。当時の人々の意識が垣間見えて興味深いですね。このような意識やイメージも、時代によってさまざまに変化していきます。

④その他、さまざまな鬼

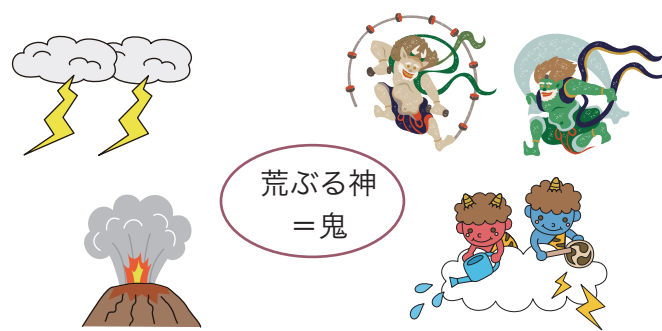
鬼瓦のように魔除けの力をもつ鬼もいます。全国には、神社に祀られる鬼もいますし、さまざまな行事に登場する鬼・鬼面の神もいます。現代でも、雷さまは鬼の姿で表現されることが多いですが、風神雷神のように自然現象を表現した鬼には、恩恵と災害をもたらす自然への恐れや、鬼と神の二面性もうかがえます。必ずしも絶対的な悪としての鬼とは限らないのですね。

一方、般若など鬼女、怨霊のような「人の化身」「怨みの象徴」の鬼は、恐ろしい姿が多いです。

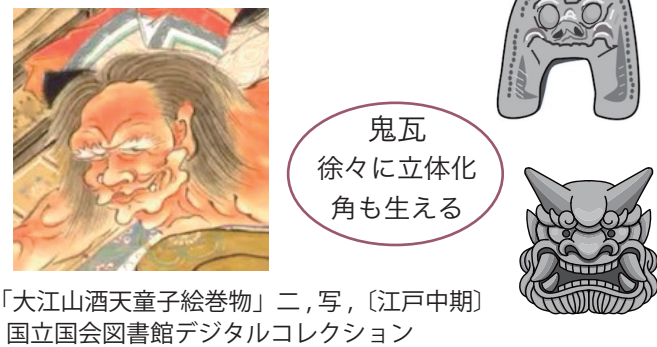
鉱山や製鉄の厳しい現場で働く労働者、新しい技術をもたらした渡来系の人々との関連を指摘する研究者もいます。

私たちがよく知る鬼のイメージ「角に牙、虎のパンツ」が定着したのは江戸時代以降中期だと言われますが、「鬼」と言ってもひと言ではくれない、さまざまな鬼がいますね。

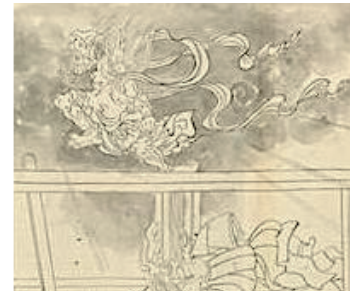
自然への畏怖（いふ）→天災は神の怒り



角(つの)はいつから…?



怨霊＝祟（たた）り



「北野天神縁起」
鬼の姿の雷神
→内裏の落雷は
菅原道真の祟り

たたられた側の
後ろめたさの
あらわれ?

『北野天神縁起』[1], 一山居士[写], 文政 11 [1828].
国立国会図書館デジタルコレクション

鬼と修験道（しゅげんどう）

- ・鬼の伝承と修験の霊場
- ・役小角（役行者）と前鬼・後鬼
- ・修験者と「鬼の子孫」
- ・鬼が登場する民俗芸能と修験道



百鬼夜行絵巻 ひゃっきやぎょう

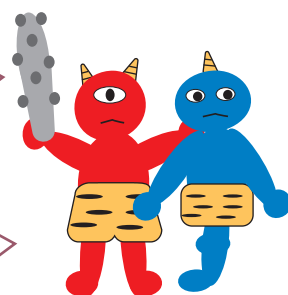


[江戸中期][写]. 国立国会図書館デジタルコレクション

鬼伝承と鉱山 製鉄の民?

たたら製鉄との関連?
・ひとつ目、一本足
・鉄の金棒 ・赤い顔

・新しい技術や文化
・渡来系の人々?
・公害を示唆?



鬼が象徴するもの

人が「鬼になる／鬼にされる」には、それなりの背景や理由があります。人を鬼にするのも、また人であると言えるでしょう。人と鬼、その境界も決して固定されたものとは言えません。

人が、鬼を恐れるのはどうしてでしょう? 人とは異なる見た目がこわいから? 人にはかなわない力が恐ろしいから? 理解できない相手への不安? それとも誰かが被害にあったのでしょうか? それは事実なのでしょうか? 自分の中の不安が、その対象を鬼として排除しようとしたのかもしれない。あるいは、自分にとって都合の悪いものを、鬼として退治したのかもしれない。また、特定の役割を担う人々が鬼として避けられたのかもしれない。鬼を恐れたり排除したりする背景は、差別の問題とよく似ていると思います。「差別はダメ」と禁止することでは解決しないでしょう。

まとめ1 非人間の鬼

- ・自然現象
- ・死やけがれ・疫病神
- ・外来神
- ・鬼神（あらぶる神）
- ・護法神
- ・宗教的役割

恐れ・畏怖（いふ）
災いと恩恵の2面性
神と鬼の両義性

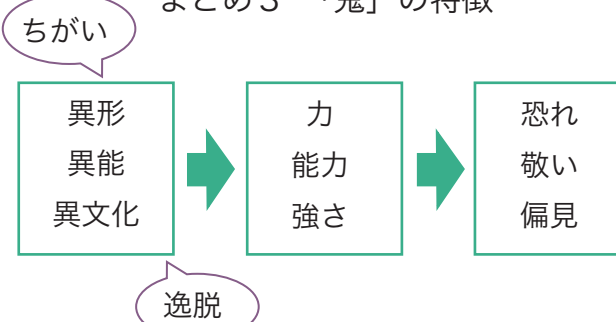
まとめ2 人間系の鬼

- ・異形・異文化の人々
- ・政治的敗者や怨霊
- ・服従しない人々
- ・人の心の醜さ、怨念
- ・製鉄の民

異質なものの
不安や恐怖の象徴
征伐（せいばつ）対象
特定の職業的役割

「逸脱」した人々
→誰の基準?

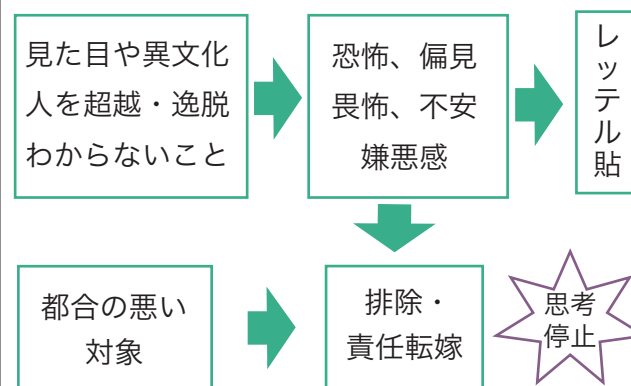
まとめ3 「鬼」の特徴



さて、「鬼」は何を象徴しているのでしょうか? 鬼が作られる過程を見てみると、「鬼」が人々の意識や時代背景、社会構造を反映しているように思えます。「鬼」から何が見えるでしょう?

自分がそう感じるのはなぜ? と振り返ってみる、問題の背景を知ること、課題や問題解決のポイントが見えてくるのではないのでしょうか。思考停止・排除して解決ではなく、「なぜ?」「どうしたら?」と考える姿勢を大切にしたいですね。

鬼は作られる→人や社会を反映



なぜ?
どうしたら?
を考える

誤解・偏見
決めつけ

不安・不満
自己防衛

悪意・嫌悪感
固定観念

- ・多様性を学ぶ
- ・姿勢を学ぶ
- ・差別の構造を知る

- ・情報リテラシー
- ・学習や相談機会
- ・加害の背景を知る

- ・人権学習や啓発
- ・差別構造を変える
- ・被害者の救済

鬼の物語を読む～鬼の側にも言い分や物語がある～

桃太郎

岡山の温羅（うら）伝説
・吉備津神社の鳴釜神事
・祀られる存在
・製鉄や渡来系の人々との関連？



ゆかりの地は、全国にあるよ！

能の鬼



般若の面

◆鬼女

・道成寺（どうじょうじ）
・黒塚・安達原
・鉄輪（かなわ）
・葵上

◆鬼神系

・土蜘蛛（つちぐも）
・小鍛冶（こかじ）
・鵜飼（うかい）
・野守

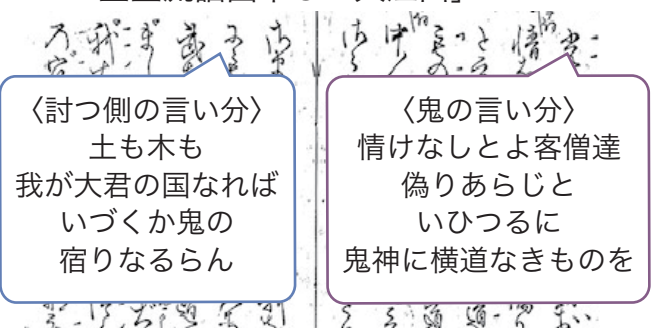
酒呑童子（しゅてんどうじ）



『酒天童子絵巻物』写，国立国会図書館デジタルコレクション

平安時代を舞台に
大江山の鬼を退治。
毒酒でだまし討ち。

宝生流謡曲本3「大江山」



近八郎右衛門，明治 19. 国立国会図書館デジタルコレクション

〈討つ側の言い分〉
土も木も
我が大君の国なれば
いづくか鬼の
宿りなるらん

〈鬼の言い分〉
情けなしとよ客僧達
偽りあらじと
いひつるに
鬼神に横道なきものを

さて、鬼退治で有名な『桃太郎』。鬼の側からすれば、侵略者、略奪者かもしれません。

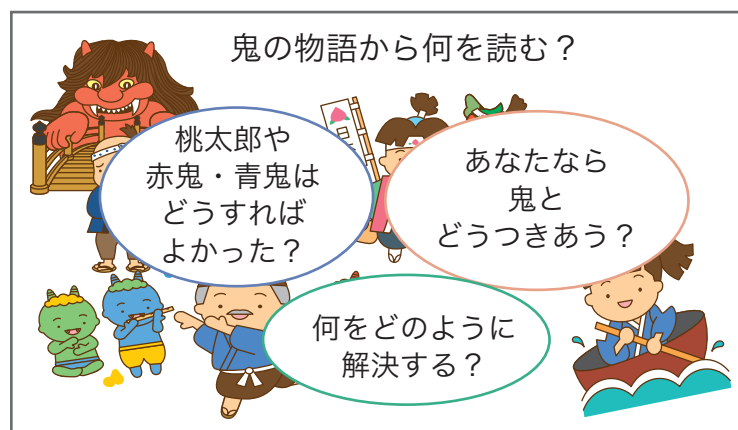
『泣いた赤鬼』の友情に感動する人は多いのですが、青鬼の優しい行動が、鬼が乱暴者だという偏見を強くしたとも言えます。優しさや思いやりを大切にしつつ、もう一歩考えてみる事ができたら、結果は変わるかもしれません。

また、「かわいそうだから」「優しいから」という理由でつきあってあげること、「島を持ってきたら」（『島ひきおに』）と条件を出してごまかすことは、結果的に相手を傷つけるかもしれませんね。

大江山の酒呑童子は最期に、毒酒を飲ませた人間たちに向かって「鬼に横道なきものを（鬼は卑怯な真似はしない）」と言っています。だましたのは鬼ではなく人間だったのです。

物語や歴史は、誰の立場で書かれたものかによって変わります。時代や立場によって正義やあたり前の基準は異なるでしょう。鬼を恐れた人たちは直接被害を受けたのでしょうか。うわさを聞いた人たちは、本当かどうか、自分で確かめたのでしょうか。退治された鬼たちは言い分を聞いてもらえたのでしょうか。桃太郎や青鬼は、本当はどうすべきだったのでしょうか？

鬼の物語を、少し視点を変えて見てみると、一方的に排除されることの理不尽さ、見た目や文化が異なる人々と共に生きること、よくわからない相手とどうつきあうのか、ということを考えさせられます。



鬼の物語から何を読む？

桃太郎や
赤鬼・青鬼は
どうすれば
よかった？

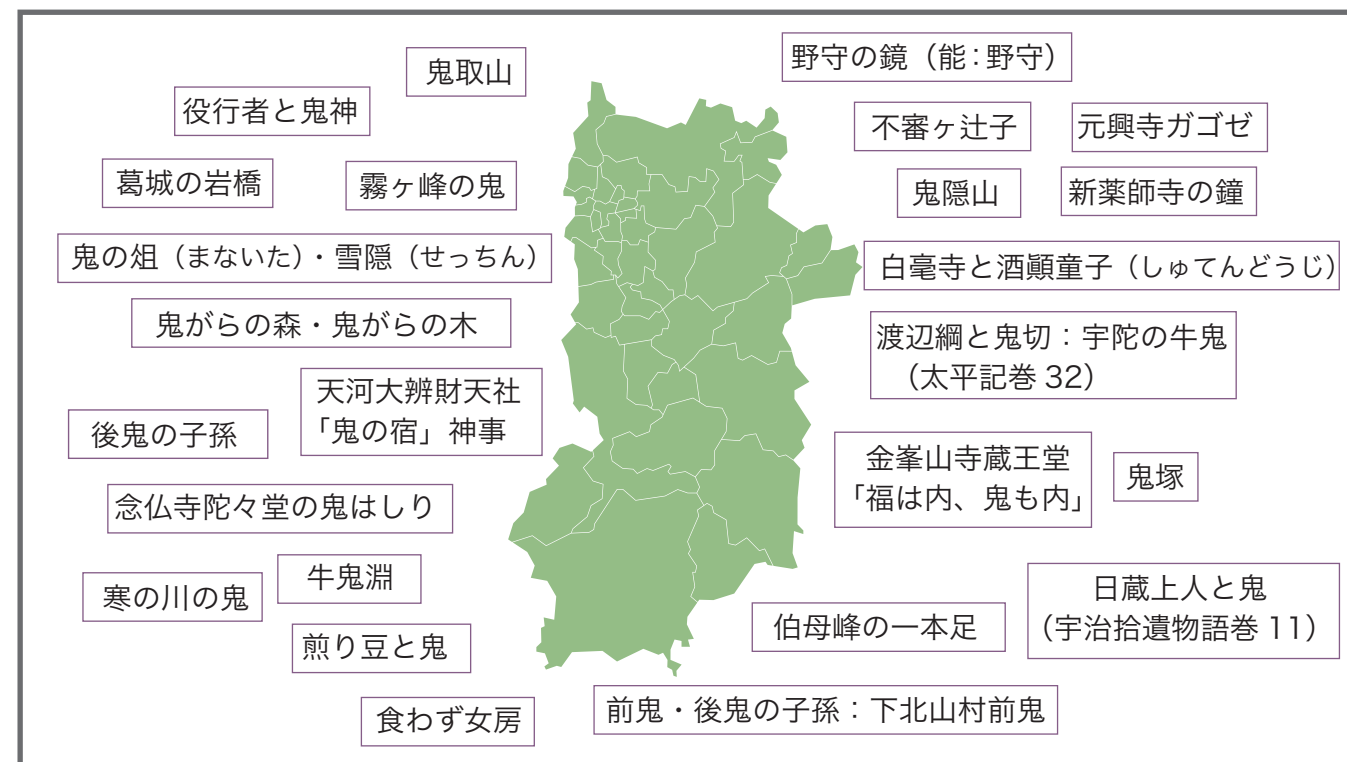
あなたなら
鬼と
どうつきあう？

何をどのように
解決する？

※参考：宮川久美「小学校国語・道徳教材『泣いた赤おに』の主題についての再検討」
奈良佐保短期大学研究紀要、第 22 号、2014 年

鬼と生きる人々

奈良県の鬼・伝説・物語の舞台



奈良県にも全国にも、鬼の伝説や物語、鬼が登場する伝統行事や芸能がたくさんあります。伝統と共存しながら、新しい試みに挑戦している人々もいます。

鬼の子孫であることを誇りに生きている人々もいます。

一方的な悪者とは異なるさまざまな形で、鬼は人々と共に生活にとけこんでいると思います。語り伝えて来た人々、継承してきた人々が何を守り、伝えようとしてきたのか、そこに込められた歴史や思いを大切にしたいものです。

※参考

- ・「大和の伝説 増補版」、高田十郎他編、大和史蹟研究会
- ・「奈良の民話」松本俊吉、未来社
- ・「奈良県史 第 13 巻」奈良県史編集委員会

地元の伝説・行事を
調べてみよう！



日本の鬼の交流博物館

京都府福知山市
大江町佛性寺 909
Tel: 0773-56-1996

※世界鬼学会
の事務局



●世界鬼学会

どなたでも参加できます。

■年会費 1000 円

■会報が年 1 回届きます

e-mail: onihaku@city.fukuchiyama.lg.jp



大江山酒呑童子伝説の舞台、京都・福知山市大江町にある「日本の鬼の交流博物館」。
大江町では、鬼をシンボルとした多彩な取り組みが進められています。